



## フランスでの同時テロに心をいためる

十一月十三日のパリでは五ヶ所でテロ事件。サッカースタジアム近くの自爆。劇場での銃の乱射。レストラン街での銃の乱射。約百三十人が犠牲になった。テロを実行したのはIS。無差別殺人のテロは許すことはできない。

### 報復として爆撃

地中海に遊弋するフランスの空母クレマンソーから飛び立ったジェット機は報復としてミサイルや爆弾でISを攻撃。  
しかし、これでテロを根絶できるのだろうか？

### ミサイルの飛んだ先

ミサイルが撃ち込まれた所ではどうだろうか？「ピンポイントの攻撃でISの幹部を殺

した」と云われる。でも、殺された人はISの幹部なのか？実は別人だったということはないのか？何も知らない隣人も一緒に殺されたかも知れない。

### 報復が報復を

家族や、親族、友人をミサイルで殺された人から見ると、欧米のミサイルは巨大なテロに見えよう。

「欧米は目標外の人間も殺している。それなら、パリで一般人を殺傷して何が悪い」と考えないか？報復が、報復を呼ぶだろう。

ISに武器を売ったり、ISから原油を密輸して儲けている輩がいる。それらを根絶し、中東に武器を運び込ませない対策が必要ではないか？  
みなさんはどう思われますか？

## 石垣島のヨットハーバー 二〇一五年十二月



石垣島のヨットハーバーの防波堤の先端から港を振りかえる。

中心に二本マストのヨットが見える。前のマストより後のマストが小さい。舵輪は小マストの後ろ。このタイプのヨットをケッチという。全長十メートル。船の名は「うみまる」。シュノーケリングや、クルージングのサービスをしている。

浜にはスロープがあり、漁船等のエンジンのついた船が引き上げられている。台風には飛ばされないよう固縛する。

ヨットは船底に大きなキールがあるので、陸揚げは困難。栈橋に繋留すると、波や風で栈橋にぶつかり壊れる。そこで、船を港の中央に泊め、四方八方にロープを張り固定する。

全ての漁船が帰港してから作業と云う。